

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 26 年 3 月 5 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470103544		
法人名	(有) 藤山商事		
事業所名	あいグループホーム		
所在地	〒732-0043 広島市東区東山町15番2号 (電話) 082-264-1006		
自己評価作成日	平成26年 2月 24日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3470103544-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3470103544-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人医療福祉近代化プロジェクト
所在地	広島県広島市安佐北区口田南4-46-9
訪問調査日	平成26年3月5日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

閑静な小高い場所にあり、交通の便の良い位置にあります。4・5階で見晴らしがよく、市内が一望でき、公園で遊ぶ子供の声、姿を見ることができます。また、病院が併設されており、週3回の医師の往診があり、日頃の体調管理が行えています。容体が悪くなった時には24時間体制で医師と看護師と連携し、速やかな対応ができ安心して生活して頂けます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホームあい高台は高台の閑静な住宅街にあり、広島駅新幹線口から車で5分、バス停から歩いて4分と大変便利なところにあります。病院に併設されグループホームは4・5階にあります。大きな丸みを帯びた出窓から市内が一望でき、新幹線が通るのも見え思わず和やかな気持ちになります。病院が併設されているので、容態が急変された時には、24時間いつでも対応して頂けるので安心です。昨年より更に福祉分野、認知症介護に経験豊かな管理者を中心に職員は心を大切に家族のような温かい対応を心掛けています。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	独自の理念を作成し、我々職員一同が振り返りながら理念を共有し実践につなげている。	法人全体の理念である、「明日のことを思いわずらう事よりも、今日1日を輝いて」をミーティングルームに掲示し、毎朝申し送り時に唱和し理念を共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人員として日常的に交流している。	町内清掃に参加している。町内会の行事はなかなか出来ない状態ではあるが出来るだけ交流は取って行こうと努力をしている。	毎月公園の清掃をしている。高層マンションが多い立地である為町内会には加入していないが、お祭りには子どもみこしが立ち寄って下さり入居者も楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の人々に認知症の理解はなかなか難しいと思うが地域の皆様に更なる理解を求めていく必要がある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は必ず奇数月に利用者様、地域包括支援センター等が参加され行事の報告をしたり、等施設サービスの向上について報告をし向上に活かしている。	運営推進会議は奇数月に開催し包括、統括、ケアマネ、ユニットリーダーが出席している。施設の現状や行事、外出計画等を報告し助言を頂きサービス向上に役立てている。家族は単身の方や遠隔地の方も多く参加が難しい。	マンションが立ち並び地域的に困難が想像されますが、民生委員、区社協や消防署等にも案内し、幅広く参加して貰われることが期待されます。特に消防署は消防避難訓練の計画に合わせた日に会議の開催をする等、参加を依頼しやすくする工夫も考えられます。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	必要書類の提出を行い、又相談させてもらっている。市の集団指導研修にも参加した。	書類の提出、運営の相談に乗って貰っている。市主催の研修会に参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員全員で身体拘束の施設内研修を実施しスキルアップを志している	建物の構造上、やむを得ず玄関は施錠しているが、職員は身体拘束について研修しており、現在身体拘束は行っていない。	玄関入口は機能的のみでなく、入居者やご家族が親しみを感じられる雰囲気づくりをされることが期待されません。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	内部外部の研修などの参加で学んでいる。スタッフの間で共有し意識してケアに取り組んでいる。虐待はありません。		

あいグループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	学ぶ機会を持てる様努力し支援していく必要がある。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約については、十分に説明を行い理解・納得して頂いた上で同意の署名・押印を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日頃からのコミュニケーションを大切にし御家族からスタッフ、管理者へ話しやすい環境である様、心がけている。又、要望にも出来るだけ答える様に心がけております。	日々の暮らしの中で利用者に寄り添い希望や要望を汲みとるようにしている。ご家族が職員や管理者に話しかけやすいよう心掛け運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	代表者は、個人面談で職員の意見や提案を聞いている。	3ヶ月毎にリーダー会議、ユニット毎に全員が参加する会議を行い、スキルアップの研修を実施すると共に、職員の意見や提案を聞き運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	勤務1年以上の職員に対してはリフレッシュ休暇が2日とれ、十分に休養出来る様に職場環境に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新人職員には、個人の力量に応じて時間をかけて研修を行っている。外部研修に参加し、スキルアップしていきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	同業者との交流がほとんどないので外部研修の機会を作り交流していきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	スキンシップを心掛け、又傾聴をする様心掛けている。否定はせず心から相手を思い、出来るだけ不安を取り除ける様、声掛けをしっかり行い、信頼関係が築ける様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	困っている事、不安な事、要望などあればなんでも御家族様から云って頂ける様な関係作りをしていって、その度説明が出来る状態にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人と御家族から話を聴き、必要とされている支援について、職員間でもよく話し合い、統一したケアが出来る様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	洗濯物干しや洗濯物たみ、おやつの盛り付け等、職員と一緒に良い関係を築いている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ホームでは疑似家族であり、いつも寄り添い共に支え合い、良い関係作りをしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	御本人、御家族や相手方の事情があり馴染みの方の来訪の方が来られる方と呼びたいけど来ていただけない事が多い。	ご家族の事情により、来訪の難しい方もあるが、訪問して頂いた方には出来るだけゆっくりして頂くようお一人おひとりを大切にしよう心掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	リビングの席を決めており皆様の関わりが持てる様にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスが終了しても、相談は受けられる体制はできている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のケアの中で本人様の想いや希望を聞く様になっている。御家族様からも情報収集して本人の希望を出来るだけ聞く様にしている。	ご本人の意思表示が困難な場合もお一人ひとりに寄り添い思いを汲み取るよう努めている。ご家族来訪時や電話連絡などで日頃の様子を聞き要望に沿った支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	一人ひとりの生活歴等を日頃の会話や御家族からお聞きし、思いをくみ取りながらケアに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一日の様子や話されたことを記録に残し、申し送り、共有し、残存能力を維持できる様に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	現場職員に担当を持ってもらい、細かなアセスメントを記入してもらい、スタッフからの意見やアイデアを反映し、介護計画に取り入れている。本人・家族の要望も取り入れている。	利用者がよりよく暮らせるように担当の職員が細かく観察し、家族とよく話し合って現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別のケース記録に細かく記入し口頭での申し送り、ノートで情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	御利用者様のニーズに合わせた支援と状況に応じた支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域・資源を把握し、協力してもらいながら支援に活かしていきたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	週に3回、ワカサ・リハビリ病院のDr.の往診がある。ご本人、ご家族の希望される医療機関への受診はご家族対応になっているが状態や症状の情報提供を行っている。	内科は週3回ワカサリハビリ病院から往診して貰っている。歯科は状況により訪問歯科を依頼している。入所前からのかかりつけ医の対応は家族にお願いしているが、施設内での様子について情報提供している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	何か、日頃と変わった事があれば、すぐに併設の看護師に相談・報告し、適切に対応出来る様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	併設の病院が、24時間体制で対応して頂ける為、安心して過ごされている。情報交換もスムーズに行えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化、終末期となりつつある場合は、家族の思いをその都度確認し、職員は家族の思いに沿った支援が出来る様に努めている。	重度化、終末期の対応について家族とよく話し合っており、出来るだけ要望に沿った支援が出来るよう努めており隣接の病院へ入院される場合もある。	重度化、終末期の対応について、よく話し合われていますが、具体的に書面にされる事が期待されます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	不規則ではあるが、講習を行っている。急変や事故発生時には迅速に対応出来る様に勉強会を開催し、実践力を身につけたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	日中想定火災避難訓練は定期的実施している。夜間想定避難訓練も行っていきたい。	火災、避難訓練は年2回実施している。避難訓練には利用者にも参加して頂いている。今後、夜間を想定した訓練の実施を立案している。	今後、夜間を想定した訓練の実施を期待します。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	プライバシー、個人情報については十分に配慮している。言葉遣いにはお互いに注意し合い対応している。	プライバシーポリシーについて施設内で研修しており、特に言葉遣いには注意している。トイレ誘導など目立たないように支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人が自己決定できるような選択肢を提示し、なるべく思いに沿った支援ができるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	日々の生活については、ご本人の今の気持ちに沿えるよう、声掛けにより確認している。職員の都合にならない様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	その日に着る服など、本人に聞きながら決めている。その人らしく、身だしなみを整えている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	気の合う入居者様同士が談笑しながら楽しく食事ができる様に席を決めている。一緒に準備は行えていないが、盛り付け方などアドアイスを頂きながら、職員が準備している。	副食はレトルトを購入し、ADLに合わせ食材の刻み方に配慮している。特に、ご飯についてお米の銘柄に拘り、水の量も利用者さん達の納得できる硬さになるよう何度も話し合いなん飯にきめた。フードコートなどへ皆で行って外食したり、お誕生会やひな祭りのお寿司をみんなで作ったりして単調にならないよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	外部委託による高齢者向けの栄養バランスのとれた食事を提供している。一人ひとりに合わせて、きざみ・極きざみなど対応している。食事量の少ない方には栄養飲料やゼリーなど、カロリー摂取できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	個人の生活習慣に合わせて口腔ケアの支援を行っている。できるだけ、毎食後に口腔ケアが行える様にしている。入れ歯の方については就寝前に義歯洗浄剤を使用している。必要な時には歯科受診によりブラッシング・歯垢除去が受けられるように支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個々の排泄パターンの把握に努め、その人に合った間隔でトイレの声掛け、誘導を行っている。トイレで排泄出来る様に支援している。	排泄パターンを把握しトイレでの排泄支援に努めている。オムツはずしに努めている。出来るだけトイレでの排泄されるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便の回数、量、状態の確認を行っている。運動や好みの飲み物で水分摂取ができるように支援している。便秘が続く時には緩下剤の量や坐薬の使用をDr.に相談しながら決めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	週に2回の入浴ができるように支援している。職員の都合で曜日や時間を決めてしまっているが本人の希望で曜日や時間の変更には、無理のない範囲で対応している。	週2回を基本に出来るだけご本人の希望に沿うようにしている。現在、座位が不自由になられた4名の方に特殊浴槽を使用して頂いているが、他の方は出来るだけ一般浴を使用して頂いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりの生活習慣に合わせて居室で休息できるようにしている。夜間も2時間毎に巡回し、必要な方には小ドアを開けて、いつでも安否確認し、安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬一覧表を作り、薬の用法、用量がいつでも確認できる様にしている。新しく処方された薬、変更になった薬は申し送り帳に記入している。		

あいグループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	洗濯物干しや洗濯物たたみ、おやつ準備、お茶とりなど役割を持って過ごして頂けるようにしている。個人の生活歴や楽しみ事の把握に努め、支援していきたい。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	家族の協力を得ながら、外出の機会を増やしていきたい。	戸外に出られない日は、外出に備えて、歩行訓練の希望者は廊下で歩行レクなどもしている。暖かい季節には向かいの公園を散歩したり、ソレイユやイオンなどに出かけ買い物を楽しんだり、縮景園に出かけ、公園内の散歩や同法人運営の他のホームとの交流を楽しみとされている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	管理できる方には、ご自分で管理し使える様に支援している。管理が難しい方が多く事務所で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があれば電話をかけた、手紙のやり取りができるように支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングで窓が広く、毎日の天気の確認がしやすく、新幹線や大型ショッピングセンターなどが見え眺めも良い。閑静な住宅街にあるので不快音も少ない。台所、浴室、トイレ等の清潔に努めている。	リビングには円形の大きな出窓があり、柔らかいカーテン等の装飾で優雅さが覗える。新幹線やショッピングセンター等が一望できる室内は広々として採光もよく静かな雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	スタッフルームの前に椅子を置き、入居者様同士や、職員と気軽に楽しくお話しや寂しい思いをされない様な居場所を作っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人や家族と相談しながら、居室環境を整えている。居室には、家族の写真や、ご自身の作品を飾っている。仏壇や位牌を置いている方もいらっしゃる。	本人や家族と相談しながら、馴染みの品を持ち込んで頂いている。仏壇を持ち込まれた方もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレが分かるように、貼り紙をしている。ご自分の部屋が分からない方には職員手作りのお名前を掛けている。		



V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

あいグループホーム

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームあい

作成日 平成 26 年 3 月 6 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議を充実したものにする。	地域の方・家族の方にも参加して頂けるように声掛けをする。	社協・消防署の御指導と協力を賜りながら会議内容を充実させる。	12ヶ月
2	52	グループホーム内に入る扉が鉄製の防火戸の為、冷たくて暗いイメージがする。	入口のベージュ色の扉を明るいイメージに一新する。	ベージュ色の扉にガーデン風景の絵や空をペイントする等して、扉入口付近のイメージを明るくする。	6ヶ月
3	13	施設内研修を充実したものにする。	研修によるスキルアップの向上。	外部研修に参加して内部研修を充実させる。	12ヶ月
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。